

山形豪雨被害に関して追加の災害調査を行いました(2013/7/29)

テーマ：緊急災害調査

場所：山形県大江町，西川町など

山形県内では梅雨前線の影響に伴い2013年7月18日の豪雨に加え，7月22日に再度激しい雨が降り，従来からの被害に加え新たな豪雨災害が山形県西川町などで発生しました。西川町では，18日の雨で陥没した橋の代わりに設置された仮橋が22日の雨で冠水し，この影響で約100世帯が孤立状態となりました（7月23日12:00に解消）。被害は長井市や鶴岡市などでも発生し，山形県以外にも，福島県，宮城県などの東北地方で被害が発生しております，また，山口県，島根県でも甚大な豪雨災害が発生しており，今後も更なる警戒が日本各地で必要となります。

当研究所では，7月21日，22日に緊急災害調査を山形県で行いましたが，再度の豪雨を受け，追加の被害調査を行いました。参加者は，Jeremy Bricker 准教授（災害リスク研究部門），久利美和講師（情報管理・社会連携部門），呉修一助教（災害リスク研究部門）で構成されました。追加調査では，河川氾濫によるインフラ（堤防・橋梁）の被害状況を把握するとともに住民への避難情報の伝達状況，避難の実施状況を調査することを目的としました。現地では，寒河江川や月布川のインフラ被害状況を視察し被害のメカニズムに関して調査を行いました。また，現地住民および大江町役場での聞き込み調査を実施することで，洪水避難指示・勧告の伝達方法や避難の実施状況に関して調査を行いました。

2度にわたる調査により本豪雨災害では，山地流域における累積雨量（土壌水分量）の重要性，河川におけるコンクリート護岸と石積み護岸のつなぎ目の脆弱性，早朝の避難指示発令・避難実施の難しさ，護岸などの初期被害からの仮設復旧を早急かつ着実に実施する事の重要性など，様々な課題や重要な点が明らかになりました。今後，得られた情報やデータの解析を進め，今後の防災対策に有益な様々な情報を国内外に発信し，社会に還元していく予定です。



基礎地盤の洗掘に伴い陥没した道路橋（西川町）



冠水した仮設道路（29日現在，西川町）



土砂崩れに伴う堤防の破損状況（西川町）



大江西川線の土砂崩れの様子（西川町）



堤防の浸食箇所を土嚢で応急処置する様子（大江町）



土砂崩れに伴う堤防の破損状況（鶴岡市）

文責：呉 修一（災害リスク研究部門）